

## 認定NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

# ORMZ ニュース第107号 (R2.6.21)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール [info@ormz.or.jp](mailto:info@ormz.or.jp)) 文責：日高良雄



**はじめに** 6月、梅雨の季節となりました。各地で早くも大雨警報が出ているようです。どうぞ大雨による災害等の対応を事前に準備しておきましょう。

新型コロナウイルス感染症、非常事態宣言が全ての都道府県で解除となり、19日には都道府県間の移動自粛もすべて解除となりました。でも国が実施した抗体検査（これまでに感染していたことを知る検査）では、東京都では0.1%、大阪府で0.17%、宮城県で0.03%の人が抗体陽性だったとのこと、つまりほとんどの人はまだ感染していない状況ということです。まだまだ油断はできませんね。

新型コロナウイルスは飛沫感染（口から出るしぶきにウイルスがいて、それを吸い込むことで感染）と接触感染（ウイルスがついている手で目や口、鼻を触ることで感染）で移ることが知られています。京都大学ウイルス・再生医科学研究所の宮沢孝之先生が示している、「ウイルスを完全になくすではなく ウイルス量を感染成立以下にする1/100 作戦」や「自分が感染しない移らないより、他人に感染させない、移さないことに注意を向ける」ことをみんなで考えていくことが大事ではと考えています。

そのためには、人と向かって話をする際はマスクをすること（普段の散歩やジョギング中のマスクは不要）、いろいろな場所に行くとき、帰るとき、食事の前後など、手洗いができる場所では何度でも、そして帰宅の際にも手洗いをを行う習慣をつけましょう。

当法人の活動も、ザンビアでの感染状況等から、まだまだ再開の目途は立たない状況です。それでも活動できるようになったときに向けて準備は進めていますので、引き続きのご支援、よろしく申し上げます。

今回のニュースでは、ザンビアの新型コロナ感染症の状況について、現地で事務の手伝いをしてもらっている Makoto Mwenya 氏と在ザンビア日本大使館から届いた情報などをお伝えします。

### 事務局活動報告

6月1日、NGOによる開発援助実績報告資料作成のための調査があり回答しました。

6月9日、以前から支援して頂いています四日市東ロータリークラブの永尾会長様はじめ3名の方が宮崎までお越しになり、中止となった25周年記念式典の際に渡す予定であった目録をいただきました。当法人からは、永年にわたるご支援と今回いただいた多額のご寄付に対して感謝状を差し上げました。

6月15日、法人県民税減免に関する承認書類が県税事務所から届きました。



### ザンビアの新型コロナウイルス感染症等の状況（Makoto Mwenya 氏からの報告 6月9日付）

ザンビアのコロナウイルス（Covid-19）に関する最新の状況をお知らせします。

1. Covid-19 感染のケースは減少しています。ザンビアが暑い気候のためか、現在のところそれほど多くの感染者はいない状況です。
2. 実際のところ、ザンビアでの日常生活は正常に戻っており、企業や事業所も活動を再開しています。

エドガー・ルング大統領も人々に対し、生活を続ける以外に選択肢はないと示すと共に、Covid-19 感染症が収束するまでに時間がかかる可能性があることを認める必要があり、そのため、すべての予防策（例：公共の場所でのマスク着用、頻繁な手洗い、アルコールなど手指消毒スプレーの使用や、少なくとも1m以上の社会的距離を維持する）を継続することで、「ニューノーマル」に進む必要があると述べています。

ほとんどの人はガイドラインに従っており、たとえばイーストパークモールは厳しい衛生対策を維持し続けていますが（写真を添付）、一部では現状に疲れたりして、マスクを装着しない人々もみられます。店員は顔面シールドとマスクを着用しています。多くの人々はガイドラインに慣れてきているので、非常に安全になっていると思います。

ですので、日本政府が人々の海外渡航を許可すれば、いつでもザンビアに戻ることができるのではと思います。実際、一部の人々では、ザンビアの症例数と死亡数が他の国と比較して少ないため、Covid-19 ウイルスがいると信じることを止めてしまっているほどです。

3. 現在、ルサカを出てさまざまな州に移動、旅行することが許可されています。政府は患者の多かったナコンデとカフェで必須としていたスクリーニング検査を終了し、ちょうどマスクを運ぶ必要があったからですが、旅行制限を解除しました。

国境のみが厳格な監視下に置かれています。

4. 到着/帰国する乗客に対して：ザンビアに到着するすべての乗客はスクリーニング検査を受けなければならない、14日間の強制的な隔離が求められています。政府施設で隔離を受けるか、政府の管理下にあるホテルのリストから選択する必要があります。しかし、症状がなければ、自宅で14日間過ごすことも許可されていて、空港に到着した時に医療従事者と話し合うことができ、彼らはさまざまなガイダンスで指導しています。

5. 保健大臣の Chitalu Chilufya 博士も、先週、Covid-19 で陽性反応を示しましたが、非常に速く回復し、2回陰性が確認され、昨日退院しました。



### **新型コロナウイルス感染症等の状況（在ザンビア日本大使館情報）**

6月8日、ムラレロ保健省次官（Ms. Kakulubelwa Mulalelo, Permanent Secretary (Administration), Ministry of Health）は、定例会見において新型コロナウイルスに係る最新情報を発表しました。

なお、5月22日に行われた大統領演説では「保健省による定期的な会見は、データ分析のための時間を確保するために月曜日及び金曜日に実施」されることとなった旨発表がありましたが、必ずしも発表通りには開催されていないため、関連情報は、当館HP及びFBをご覧ください。

1、直近7日間で8,805件の検査を行い、新たに111名の感染が確認され、累計症例数は1,200名となった。

2、新たに112名が治癒し隔離施設を退所し、累計治癒数は1,024名となった。新たに3名の死亡者が確認され、累計死者数は10名となった（注：前回発表との比較によれば、治療者と死亡者を除いた現行患者数は166名）。

